

ぎふ感染症かわら版

平成 30 年 9 月 21 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



9 月 24 日～30 日は結核予防週間です！

結核は、現在でも日本で発生の多い感染症の一つです。

2017 年には全国で約 17,000 人が、岐阜県では 313 人が新たに結核を発病しました。

近年では結核患者の多くが高齢者で、県内でも患者の約半数が 80 歳以上となっています。

どんな病気？

結核菌が体の中に入ることによって起こる病気です。
主に肺の内部で増え（肺結核）、
咳、たん、発熱など、かぜに似た症状が長く続きます。
結核と診断された場合、服薬による治療を行います。

どう感染するの？

患者のたんに含まれる結核菌が、
咳やくしゃみで空気中に飛び散り、
それを吸い込むことで感染します（空気感染）。

感染しても必ずしも発病するわけではなく、
通常は免疫力により結核菌の増殖が抑えられ、休眠状態になります。
体の免疫力が弱まると休眠状態の結核菌が再び活動を始め、発病することがあります。
結核患者に高齢者が多いのは、かつて結核がまん延していた時代に感染した方が、
高齢となり免疫力が低下して発病するためと考えられています。

結核の定期的健康診断を受けましょう

結核のまん延を防ぐためには、早期発見がなにより大切です。
結核健診は本人の健康のためだけでなく、
早期発見によって周りの人への感染拡大を防ぐという点でも重要です。
高齢者は、咳やたんなど、結核に特徴的な症状が出ないことがあり、
気づかないうちに結核が進行してしまふことがあります。
80 歳以上の方は特に、年に 1 回、自治体などで実施している結核健診を必ず受けましょう。



★ 厚生労働省の結核予防週間啓発リーフレット（下記サイト）もあわせてご覧ください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/000351923.pdf>



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。
くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

